ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2019

High Performance Sport Conference 2019

東京2020、そしてその先へ

Tokyo 2020, Ahead and Beyond

2019.10.28MON–29TUE

JAPAN SPORT COUNCIL
日本スポーツ振興センター

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

会 場

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）
Japan High Performance Sport Center
味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）/屋内トレーニングセンター・ウエスト
国立スポーツ科学センター（JISS）

HPSC JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER

ハイパフォーマンススポーツの拠点として

ハイパフォーマンススポーツとは、スポーツの卓越性（Performance Excellence）を目指すスポーツ活動を意味します。ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）は、オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、国立スポーツ科学センター（JISS）と味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）が持つスポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学・情報サポート及び高度な科学的トレーニング環境を提供し、国内外のハイパフォーマンススポーツの強化に貢献しています。

国立スポーツ科学センター（JISS）

スポーツ医・科学の研究施設、トレーニング施設等で構成され、最新器具・機材を活用し、より効果的・効率的にスポーツ医・科学研究、支援を行うための施設です。

味の素ナショナルトレーニングセンター

屋内トレーニングセンター・ウエスト（西館）、陸上競技場、屋内テニスコート及び宿泊施設のアスリートヴィレッジで構成される、トップレベルの競技者が同一拠点で集中的・継続的にトレーニングを行うための施設です。

ナショナルトレーニングセンター
屋内トレーニングセンター・イースト（東館）

オリンピック競技とパラリンピック競技の一体的な拠点として2019年に完成しました。

開催概要

名　称　ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2019　～東京 2020、そしてその先へ～
日　時　Day1：2019 年 10 月 28 日（月）13:00 ～ 18:10（開場 12:00）
　　Day2：2019 年 10 月 29 日（火）　9:00 ～ 17:00（開場　8:30）
会　場　ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）
　　・味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）屋内トレーニングセンター・ウエスト 1 階 大研修室 他
　　・国立スポーツ科学センター（JISS）1 階 陸上競技実験場
　　〒 115-0056 東京都北区西が丘 3-15-1
対　象　競技団体関係者（アスリート、育成・強化担当者等）/ 研究者（大学、研究所、地域医・科学センター等）/
　　国内外スポーツ関係者（自治体、関連企業等）/ ハイパフォーマンススポーツの競技力向上・発展に資する者 ほか
主　催　独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター
後　援　スポーツ庁 / 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）/
　　公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）/ 公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）
協　賛　ゴールドパートナー　富士通株式会社
　　ブロンズパートナー　株式会社 NTT ドコモ

注意事項

- 会場内での写真撮影は原則可能ですが、講演中の録画・録音は禁止させていただきます。写真撮影の際は、他の方のご迷惑にならないようご配慮ください。なお、プログラムによっては撮影不可の場合もございますのでご了承ください。
- 会場 D（JISS 陸上競技実験場）は、ハイヒールでのご入場はご遠慮ください。
- 会場内での飲食は可能です。ただし、講演中の会場内ではご遠慮ください。なお、会場の一部にフリースペースも設けております。
- ハイパフォーマンススポーツセンター敷地内にある各レストランはご利用いただけません。
- 開催中の写真や映像を、日本スポーツ振興センターの記録及び広報活動（ウェブサイト、ニュースレター等）に使用する場合があります。
- 本カンファレンスはメディアに公開しますので、会場の様子が報道される場合があります。
- 都合により、予告なく時間・内容等が変更になる場合があります。
- 天災地変又は不測の事態により、本カンファレンスを中止する場合があります。
- 本カンファレンスに関わる申込者の所有する物の盗難、紛失、破損、又は申込者の損害・事故などに関し、日本スポーツ振興センターは一切の責任を負いません。
- 当施設は通常営業を行っております。来館するアスリート及びスタッフ等へのご迷惑となる行為はご遠慮ください。

会場マップ

タイムテーブル -Timetable

Day1　10 月 28 日（月）

	A　NTC 大研修室	B　NTC 研修室 1-3	C　NTC 研修室 5	D　JISS 陸上競技実験場	
	セミナー		ミニセッション	ブース展示	ポスター展示
12:00				12:00-17:30 301 アスリート医・科学サポート体験コーナー Try It Yourself! A Chance to Experience the Support Provided for Elite Athletes in Sports Medicine and Science 302 中長期計画の活用術 Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning 303 パートナー企業紹介 Sponsor Companies	12:00-17:30 401 ハイパフォーマンススポーツセンターにおけるスポーツ医・科学研究 Sports Medicine and Science Research at Japan High Performance Sport Center 402 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP） Sports Research Innovation Project (SRIP) 403 女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究発表 Investigative Studies on Strategic Development for Female Athletes
12:30					
13:00	13:00-14:10 101 【基調講演】 世界をリードする英国代表サポートチームとしてのEIS の役割と機能 EIS as a Cutting-edge Support Service Provider				
13:30					
14:00					
14:30	14:30-16:00 102 自国開催のプレッシャーを克服する～研究成果と実際の対策～ Overcoming the Pressure of Playing on the Home Field - Research Findings and Practical Approaches -				
15:00					
15:30					
16:00					
16:30	16:20-17:30 103 東京 2020、暑熱対策～暑さを克服して最大限のパフォーマンスを発揮する～ Countermeasures and Strategies to Maximize Performance in the Heat at Tokyo 2020	16:30-17:30 104 中長期計画を活かす戦略思考 Strategic Thinking in Putting Mid- and Long-term Planning Into Action	16:30-17:30 111 自国開催のプレッシャーを克服する～実践編～ Overcoming the Pressure of Playing on the Home Field: Putting It Into Practice		
17:00					
17:30	17:40-18:10 121 【ゴールドパートナーセミナー：富士通株式会社】 スポーツビジネス新時代。革新をもたらすスポーツ ICT Opening a new era of sports business, Sports ICT brings innovation				
18:00					
18:30					

Day2　10 月 29 日（火）

	A　NTC 大研修室	B　NTC 研修室 1-3	D　JISS 陸上競技実験場		
	セミナー		ミニセッション	ブース展示	ポスター展示
9:00	9:00-10:40 201 トップアスリートのためのコンディショニング戦略 ～大会当日に最高のパフォーマンスを発揮する～ Conditioning Strategies for Elite Athletes - Achieving Optimum Performance In Competition -	9:00-10:30 202 女性アスリート支援のその先 ～みんなでつくるスポーツの未来～ The Provision of Support to Female Athletes - Creating the Future of Sports Together -	9:00-10:00 211 ハイパフォーマンススポーツセンターネットワークの構築に向けた取り組み Building the Network between Japan High Performance Sport Center and Local Facilities	9:00-17:00 301 アスリート医・科学サポート体験コーナー Try It Yourself! A Chance to Experience the Support Provided for Elite Athletes in Sports Medicine and Science 302 中長期計画の活用術 Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning 303 パートナー企業紹介 Sponsor Companies	9:00-17:00 401 ハイパフォーマンススポーツセンターにおけるスポーツ医・科学研究 Sports Medicine and Science Research at Japan High Performance Sport Center 責任着座：12:00-14:00 402 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP） Sports Research Innovation Project (SRIP) 責任着座：12:00-14:00 403 女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究発表 Investigative Studies on Strategic Development for Female Athletes 責任着座：11:30-13:00
9:30					
10:00					
10:30			10:30-11:00 212 中長期計画の活用術 Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning		
11:00	11:00-12:10 203 【特別公演】 最適なパフォーマンスのためのテーパリングとリカバリー Tapering and Recovery for Optimal Performance	11:00-12:30 204 競技別育成パスウェイモデル構築の試み ～日本版 FTEM 活用のすすめ～ Developing Sport-specific Pathway Models Using the Japanese FTEM (Foundation, Talent, Elite, and Mastery)			
11:30			11:30-13:00 213 女性アスリートに必要な支援を探る Defining the Support Needed by Female Athletes		
12:00					
12:30	12:40-13:30 221 味の素株式会社のトップアスリートに対する科学的栄養サポート ～研究と選手強化の融合～ Science-based Nutritional Support for Elite Japanese Athletes by Ajinomoto Co., Inc - Integration of Research and Practice -				
13:00					
13:30			13:20-13:50 212 中長期計画の活用術 Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning		
14:00					
14:30	14:10-15:40 205 トップアスリートのためのトレーニング戦略 ～最新知見と実践応用～ Training Strategies for Elite Athletes - The Latest Findings and Putting Them to Work -	14:10-15:40 206 ポスト 2020 のスポーツ界におけるデュアルキャリア支援の在り方 A Post-2020 Dual Career Support System for High Performance Athletes			
15:00					
15:30					
16:00	16:00-17:00 207 東京 2020、そしてその先へ Tokyo 2020, Ahead and Beyond				
16:30					
17:00					

プログラム -Programme : Day1

13:00～14:10　Keynote Seminer　　会　場 A B

101 【基調講演】世界をリードする英国代表サポートチームとしてのEISの役割と機能

EIS as a Cutting-edge Support Service Provider

ナイジェル・ウォーカー

ロンドン2012大会において、英国はオリンピック・パラリンピックともにメダル獲得数3位となり、自国開催を成功させました。続くリオ2016大会では、自国開催後にメダル獲得数を増加させるという偉業も成し遂げています。これらの実績を含め、近年のハイパフォーマンススポーツをリードし続ける英国チームをサポートする英国スポーツ研究所（EIS）の役割と機能、その成功を支える組織戦略について紹介します。

14:30～16:00　Seminar　　会　場 A B

102 自国開催のプレッシャーを克服する ～研究成果と実際の対策～

Overcoming the Pressure of Playing on the Home Field　- Research Findings and Practical Approaches -

グスタボ・ハラダ 、立谷 泰久

東京2020大会で、日本選手は自国開催という大きなプレッシャーにさらされるでしょう。そこで、ハイパフォーマンススポーツセンターの心理学グループから研究成果を共有するとともに、リオ2016大会で自国開催を経験された元ブラジルオリンピック委員会（COB）のグスタボ・ハラダ氏をゲストに迎え、東京2020大会において、選手がプレッシャーを克服し最高のパフォーマンスを発揮するための対策を考えます。

16:20～17:30　Seminar　　会　場 A

103 東京2020、暑熱対策 ～暑さを克服して最大限のパフォーマンスを発揮する～

Countermeasures and Strategies to Maximize Performance in the Heat at Tokyo 2020

浅田 佳津雄、田島 孝彦、細川 由梨、中村 真理子 、内藤 貴司

東京2020大会は、史上最も過酷な暑熱環境となることが予想されます。暑熱環境による運動への生理学的な影響や、暑熱環境においてもパフォーマンスを最大限に発揮するための対策については、ハイパフォーマンススポーツセンター及び国内外の研究機関等で研究が進められてます。本セミナーでは、暑熱対策の専門家から知見を紹介し、東京2020大会に向けた暑熱対策を提案します。

16:30～17:30　Seminar　　会　場 B

104 中長期計画を活かす戦略思考

Strategic Thinking in Putting Mid- and Long-term Planning Into Action

福田 佑輔、山崎 一彦

アスリートの育成・強化における成果を創出していくためには、中長期的な視点からの戦略立案が必要です。戦略を立てるにあたっては、現状を分析することで課題を抽出し、その解決に向けた取り組みを行うことが重要となります。それぞれの目標達成に向けた課題の解決策として、ハイパフォーマンススポーツセンターが実施する戦略的強化の各種事業を活用している中央競技団体の事例を紹介するとともに、中長期計画を活かして成果を生み出すための戦略思考について考えます。

16:30～17:30　Mini Session　　会　場 C

111 自国開催のプレッシャーを克服する ～実践編～

Overcoming the Pressure of Playing on the Home Field: Putting It Into Practice

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター 心理グループ

「自国開催のプレッシャーを克服する～研究成果と実際の対策～」の内容を踏まえ、「実践編」では少人数のグループワークをとおして、プレッシャーを克服するための対策を体験していただきます。本セッションの進行は、アスリートやコーチに対する心理サポートを提供している、ハイパフォーマンススポーツセンターの心理グループが担当します。

17:40～18:10　Seminar sponsored by FUJITSU　　会　場 A

121 【ゴールドパートナーセミナー：富士通株式会社】スポーツビジネス新時代。革新をもたらすスポーツICT

Opening a new era of sports business, ports ICT brings innovation

阪井 洋之

富士通は、スポーツ産業の成長にICTで貢献するため、スポーツICTに注力しています。さらなるスポーツ産業の発展を目指し、ICTがスポーツの未来を切り開く事例を紹介します。

プログラム -Programme : Day2

9:00～10:40　Seminar　　会　場 A

201 トップアスリートのためのコンディショニング戦略 ～大会当日に最高のパフォーマンスを発揮する～

Conditioning Strategies for Elite Athletes - Achieving Optimum Performance In Competition -

笠原 政志、早川 直樹、星川 雅子

アスリートのトレーニングが高強度化している近年、コンディショニングの重要性はますます高まっています。大会本番に向けて、そして、大会期間中にアスリートのコンディションをいかに最適な状況に導くか、その戦略について考えます。さらに、ハイパフォーマンススポーツセンターが研究・提供しているコンディショニングサポート内容、国内外の最新知見、競技現場で実際に実施されているコンディショニング戦略を紹介します。

9:00～10:30　Seminar　　会　場 B

202 女性アスリート支援のその先 ～みんなでつくるスポーツの未来～

The Provision of Support to Female Athletes - Creating the Future of Sports Together-

本橋 麻里、高木 エレナ、関根 明子、東海林 祐子、梶原 晃、三枝 大地、土肥 美智子、松井 陽子

スポーツ庁委託事業としてハイパフォーマンススポーツセンターが実施している「女性アスリート支援プログラム」の地域展開の事例紹介や、女性エリートコーチ育成における課題や解決策について、パネリストを交えて討論し、女性アスリートに対する支援の今後の展望について考えます。

11:00～12:10　Special Seminar　　会　場 A

203 【特別講演】最適なパフォーマンスのためのテーパリングとリカバリー

Tapering and Recovery for Optimal Performance

イニゴ・ムジカ

「Endurance Training - Science and Practice -」や「Recovery for Performance in Sport」等の著書でも知られる、イニゴ・ムジカ氏をゲストに迎えて、ハイパフォーマンススポーツ研究の海外の最新事例を紹介し、今後のハイパフォーマンススポーツ研究の取り組み方について考えます。

11:00～12:30　Seminar　　会　場 B

204 競技別育成パスウェイモデル構築の試み ～日本版FTEM活用のすすめ～

Developing Sport-specific Pathway Models Using the Japanese FTEM (Foundation, Talent, Elite, and Mastery)

櫻井 誠一、舩先 康平、古幡 陵介、ジェイソン・ガルビン、衣笠 泰介

オーストラリア国立スポーツ研究所（AIS）が開発したアスリート育成パスウェイのフレームワーク「FTEM」は、現在国際的に認知・活用されつつあります。一方、日本のアスリート育成現場では、日本における競技スポーツの実態に基づいた実践的な枠組みの確立が求められてきました。ハイパフォーマンススポーツセンターはこのたび「日本版FTEM」を開発し、競技別育成パスウェイモデルの構築を目指して準備を進めています。本セミナーでは、日本版FTEMの概要や取り組み事例の紹介をとおして、競技団体における活用の意義について考えます。

14:10～15:40　Seminar　　会　場 A

205 トップアスリートのためのトレーニング戦略 ～最新知見と実践応用～

Training Strategies for Elite Athletes - The Latest Findings and Putting Them to Work -

仙石 泰雄、萩原 正大、鈴木 康弘

アスリートは、大会当日に向けて目標を設定し、その目標を達成するためにトレーニングを実施します。限られた時間の中で最大限のトレーニング効果を獲得するためにはどうすべきか。ハイパフォーマンススポーツセンターや大学等による最新の研究成果や、中央競技団体が実際に実施している方法を紹介しながら、今後のトップアスリートのためのトレーニング戦略について考えます。

14:10～15:40　Seminar　　会　場 B

206 ポスト2020のスポーツ界におけるデュアルキャリア支援の在り方

A Post-2020 Dual Career Support System for High Performance Athletes

田中 研之輔、松本 薫、宮脇 信介、河合 純一

東京2020大会以降のトップアスリートのデュアルキャリア支援体制をどう構築すべきか。メダル獲得と大会出場を目指すことがゴールとなり、競技以外の人生を並行して考えることが難しい状況の中で、スポーツ界と他の産業におけるキャリア支援における類似性と独自性を理解し、トップアスリートのデュアルキャリア支援体制をどう構築すべきかを考えます。

16:00～17:00　Seminar　　会　場 A B

207 東京2020、そしてその先へ

Tokyo 2020, Ahead and Beyond

ナイジェル・ウォーカー、グスタボ・ハラダ、久木留 毅、石毛 勇介 、奥脇 透、髙橋 英幸

研究と支援を両輪としてメディカル部門も有するハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）。スポーツ医・科学の支援に特化した英国スポーツ研究所（EIS）。それぞれの機能と国際的なスポーツ医・科学支援の最新動向に関する情報共有・議論を通じて、東京2020大会、そして2020年以降にHPSCが果たすべき役割や今後の期待される機能について考えます。

9:00～10:00　Mini Session　　会　場 D

211 ハイパフォーマンススポーツセンターネットワークの構築に向けた取り組み

Building the Network between Japan High Performance Sport Center and Local Facilities

白井 克佳（ハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部 開発課長）
尾崎 宏樹（ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ科学部 研究員）
清水 和弘（ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 研究員）

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）が2018年度から実施している「ハイパフォーマンスセンターネットワークの構築」事業の進捗および今後の展望を報告します。併せて、今後HPSCのリソースを地域へと展開していくための活動の一環として、地域の医・科学センターや大学、トレーニング拠点などの関連施設とHPSCが、体力測定や研究の実施、データの共有などにおいて双方メリットがある形で連携していくための方策について議論します。

10:30～11:00, 13:20～13:50　Mini Session　　会　場 D

212 中長期計画の活用術

Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning

アスリートの育成・強化における成果を創出していくためには、競技力強化のための諸活動を包括的な取り組みとなるようにマネジメントする必要があります。その際には、短期的な取り組みだけでなく、中長期的な視点からの取り組みが重要となります。中長期計画を作成し、活用するための実践的な情報提供をワークショップを通じて行います。

11:30～13:00　Mini Session　　会　場 D

213 女性アスリートに必要な支援を探る

Defining the Support Needed by Female Athletes

スポーツ庁委託事業 女性アスリートの育成・支援プロジェクト受託者
（西別府病院、日本体育大学、早稲田大学、大阪体育大学、日本スポーツ振興センター）

女性アスリートの国際競技力を向上するための支援や、ジュニア期から健全に競技を継続できる環境の整備を目的に、各方面で様々な取り組みが行われています。関係組織における取り組みや女性アスリートに関する調査・研究で得られた知見等を紹介します。

12:40～13:30　Luncheon Sponsored by AJINOMOTO　　会　場 A

221 【協賛：味の素株式会社】味の素株式会社のトップアスリートに対する科学的栄養サポート～研究と選手強化の融合～

Science-based Nutritional Support for Elite Japanese Athletes by Ajinomoto Co., Inc - Integration of Research and Practice -

加藤 弘之、松田 丈志、亀井 明子

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

味の素株式会社では、2003年より日本オリンピック委員会（JOC）と共同で「ビクトリープロジェクト®」を推進し、日本代表選手および候補選手に対して、食とアミノ酸を通じたコンディショニングをサポートしています。同社が行っているスポーツ栄養研究を通じたタンパク質・アミノ酸を中心とした科学的知見の開発と、研究と選手サポートの実践との連動について、研究者の視点と、サポートを受けてきたトップ選手の視点から紹介していただきます。
※参加者（定員200名）の方には、昼食をご提供いたします。
※参加には整理券が必要です。整理券の配付方法は、会場内掲示等にてご確認ください。

プログラム -Programme : Day1&Day2　両日

Booth Exhibit　会 場 D

301 アスリート医・科学サポート体験コーナー
Try It Yourself! A Chance to Experience the Support Provided for Elite Athletes in Sports Medicine and Science

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）では､「研究」と「支援」を両輪として､アスリートのサポートに取り組んできました。各コーナーでは、医・科学研究の成果を基に、HPSCがアスリートに対して提供している支援内容を、実際に体験いただきながら紹介します。

Booth Exhibit　会 場 D

302 中長期計画の活用術
Skillful Utilization of Mid- and Long-term Planning

競技力強化のためには、俯瞰的な視点をもって様々な活動をマネジメントし、アスリートの育成・強化において成果を生み出すことが求められます。そのためには、短期的な取り組みだけでなく、中長期的な取り組みも不可欠です。中長期計画を作成・活用するための情報提供とともに、競技力向上事業の枠組みや戦略的強化における事例を紹介します。

Booth Exhibit　会 場 D

303 パートナー企業紹介
Sponsor Companies

本カンファレンスのパートナー企業の取り組み等について紹介します。
・富士通株式会社（ゴールドパートナー）
・株式会社NTTドコモ（ブロンズパートナー）

Poster Exhibit　会 場 D

401 ハイパフォーマンススポーツセンターにおけるスポーツ医・科学研究
Sports Medicine and Science Research at Japan High Performance Sport Center

▶ p13~16 (01~30)

ハイパフォーマンススポーツセンターでは、中央競技団体（NF）とのコミュニケーションや様々な測定等を通してNFが抱える課題を明らかにし、その課題を解決するために多様な研究や事業を実施しています。これらの研究成果や各種事業の取り組みについて紹介します。

Poster Exhibit　会 場 D

402 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）
Sports Research Innovation Project (SRIP)

大阪大学、筑波大学（スポーツ庁委託事業受託機関）

▶ p17 (31~34)

ハイパフォーマンススポーツにおける新たなサポート方策の確立のため、スポーツ庁委託事業「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）」が実施している、独創的・革新的かつ地域・組織の特性を生かした研究の成果を紹介します。

Poster Exhibit　会 場 D

403 女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究発表
Investigative Studies on Strategic Development for Female Athletes

スポーツ庁委託事業 女性アスリートの育成・支援プロジェクト受託者

▶ p18~19 (35~47)

女性アスリートの国際競技力を向上するための支援や、ジュニア期から健全に競技を継続できる環境の整備を目的に、各方面で様々な取り組みが行われています。関係組織における取り組みや女性アスリートに関する調査・研究で得られた知見等を紹介します。

登壇者 -Speakers

ナイジェル・ウォーカー　Nigel WALKER

101
207

英国スポーツ研究所(EIS)所長

陸上（ハードル）の英国代表選手としてオリンピックを含む国際大会で活躍。その後転向したラグビーでもウェールズ代表として多数の試合に出場。イギリス国営放送（BBC)ウェールズ支局で要職を歴任し、UKスポーツ監査委員等の役員も務めた。2010年より現職。

グスタボ・ハラダ　Gustavo HARADA

102
207

国内オリンピック委員会連合(ANOC)ワールドビーチゲームズ国際連携担当ディレクター

元ブラジルオリンピック委員会(COB) International Games and Operations General Manager

サンパウロ大学（USP）スポーツ科学専攻卒。ジェトゥリオ・ヴァルガス財団（FGV）にてMBA取得。セーリング選手として国際大会への出場経験多数。2007年よりブラジルオリンピック委員会（COB）のマネージャーとして、ブラジル史上最高の結果を残した自国開催のリオ2016大会を含む夏季・冬季オリンピック5大会（バンクバー2010～平昌2018）を担当し、うちロンドン2012以降の4大会でブラジル選手団の副団長を務めた。

立谷 泰久　TACHIYA Yasuhisa

102

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツメディカルセンター 先任研究員

日本スポーツ心理学会認定・スポーツメンタルトレーニング（Sport Mental Training; SMT）上級指導士。最近の研究としては、東京2020大会に向けた心理面の対策を行っており、ナショナルチームへの講習会や選手の個別サポートも実施している。

浅田 佳津雄　ASADA Kazuo

103

ウェザーニューズ スポーツ気象チーム チームリーダー

東京2020大会を見据えて2015年にスポーツ気象チームを立ち上げ、2015年ラグビーW杯、リオ2016大会、平昌2018大会にて、気象情報提供により準備力向上の観点で日本代表チーム・選手をサポート。現在は、日本陸上競技連盟、日本テニス協会、日本トライアスロン連合、日本セーリング連盟、全日本アーチェリー連盟、日本パラ陸上競技連盟等の情報戦略委員や暑熱対策委員等を務める。

田島 孝彦　TAJIMA Takahiko

103

日本テニス協会 ナショナルチーム統括マネージャー

鷺宮製作所硬式野球部ストレングスコーチ、桜田倶楽部ストレングスコーチ、同マネジメントディレクター、日本オリンピック委員会（JOC）専任医科学スタッフを経て、2001年に日本テニス協会強化本部に参画。2008年の味の素ナショナルトレーニングセンター設立時よりナショナルチーム統括マネージャーとして代表選手のサポート体制確立に従事。2013年からテクニカルサポート委員長、2019年から強化情報科学委員長も兼任し、代表チームをサポートしている。

細川 由梨　HOSOKAWA Yuri

103

早稲田大学 スポーツ科学学術院 専任講師

早稲田大学卒業後、渡米。アーカンソー大学アスレティックトレーニング大学院修士(MAT)課程修了、米国公認アスレティックトレーナー(ATC)取得。コネチカット大学大学院キネシオロジー研究科博士課程修了後、同大学Korey Stringer Instituteでのポストドクトラルフェローを修了し、2018年に帰国。立命館大学講師を経て、現職。主な研究領域は暑熱環境下における運動生理学および熱射病の病因学で、エビデンスに基づいた熱中症予防の普及活動を進めている。

中村 真理子　NAKAMURA Mariko

103

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ科学部 研究員

筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻博士課程修了。2009年より現職。専門は運動生理学。トップアスリートのサポート及び研究（暑熱対策、女性アスリートのコンディショニング等）に取り組んでいる。

内藤 貴司　NAITO Takashi

103

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 契約研究員

九州大学にて博士(人間環境学)を取得後、2017年4月から現職に至る。専門領域は運動生理学・環境生理学。身体冷却や暑熱順化トレーニング、輻射熱に関する研究に従事。現在はテニス競技に特化した身体冷却法を検討している。

福田 佑輔　FUKUDA Yusuke

104

日本フェンシング協会 強化本部 強化本部長

男子フルーレナショナルチームコーチ（2012年～)、女子フルーレナショナルチームコーチ（2016年～）を経て、2018年8月強化本部長に就任。監督としてアジア大会・アジア選手権・世界選手権を率いた。

山崎 一彦　YAMAZAKI Kazuhiko

104

日本陸上競技連盟 強化委員会 ディレクター(トラック＆フィールド)

400mハードルでオリンピックに3度（バルセロナ、アトランタ、シドニー）出場。1995年世界選手権7位。引退後は、岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター優秀指導者、福岡大学准教授、英国ラフバラ大学客員研究員、陸上競技部コーチを経て、順天堂大学スポーツ健康科学部教授として教鞭を執る。日本陸連では、強化委員会ハードル部長、強化育成部長を歴任し、国際的競技者育成のためのダイヤモンドアスリート・プログラムを担当。現在はディレクター（トラック＆フィールド）として東京オリンピック強化対策に力を注いでいる。

阪井 洋之　SAKAI Hiroyuki

121

富士通 執行役員常務 東京オリンピック･パラリンピック推進本部 スポーツ･文化イベントビジネス推進本部担当

1983年富士通株式会社入社。マーケティング部門、営業部門、新規事業開発部門などを経験。2018年4月より、東京オリンピック・パラリンピック推進本部、スポーツ・文化イベントビジネス推進本部を担当。

笠原 政志　KASAHARA Masashi

201

国際武道大学 准教授

国際武道大学卒業・同大学院修了後、国際武道大学トレーニング室のアスレティックトレーナーとして勤務。鹿屋体育大学大学院博士後期課程を修了し、2015年にはオーストラリア国立研究所（AIS）の客員研究員としてコンバットスポーツとリカバリーグループに所属しアスリートサポートに従事。専門はアスレティックトレーニング、コンディショニング科学。現在は大学にてアスレティックトレーナー教育を行いながら、パフォーマンスを最大限に高めるコンディショニングに関わる研究活動を行っている。

早川 直樹　HAYAKAWA Naoki

201

V･ファーレン長崎 フィジカルコーチ

ガンバ大阪トレーナー（1993-1995）、ジェフユナイテッド千葉アスレティックトレーナー（1996-1998）、サッカー男子日本代表チームアスレティックトレーナー（1999-2010）、同コンディショニングコーチ（2010-2018）を経て、現職。

星川 雅子　HOSHIKAWA Masako

201

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 先任研究員

鹿屋体育大学助手を経て、現日本スポーツ振興センター入職。国立スポーツ科学センターに設置準備室から参画し、2001年開所時より勤務。スポーツ研究部コンディショニング研究グループに所属し、運動生理学と睡眠を専門として研究を行っている。

本橋 麻里　MOTOHASHI Mari

202

ロコ･ソラーレ 代表理事

12歳からカーリングを始め、トリノ2006大会7位、バンクーバー2010大会8位と2大会連続入賞を果たし、平昌2018大会では銅メダルを獲得した。2018年夏に一般社団法人ロコ・ソラーレを設立し、現在は代表理事としてチーム運営や育成チームのコーチ等の活動を行っている。

高木 エレナ　TAKAGI Erena

202

三重花菖蒲スポーツクラブ 三重バイオレットアイリス 選手

日本ハンドボールリーグ女子チーム・三重バイオレットアイリスのゴールキーパー。高校時代に競技を始め、日本体育大学で頭角を現し、2013年に三重バイオレットアイリスに入団。U-20、U-22の各カテゴリー日本代表に選出された。2016年には女子日本代表「おりひめジャパン」に初選出。2018-19年シーズンは産休のためGKコーチを務め、現在は競技復帰を目指しトレーニングに励んでいる。

関根 明子　SEKINE Akiko

202

日本トライアスロン連合 理事

関根スポーツマッサージ治療院

1994年ダイハツ工業株式会社に入社し、陸上部に所属。1998年にトライアスロンに転向。シドニー2000大会、アテネ2004大会とオリンピックに2度出場し、2006年のドーハアジア大会では銅メダルを獲得した。現在は、三人の子育てをしながら、トライアスロンやランニングのコーチとして活動している。

東海林 祐子　TOUKAIRIN Yuko

202

慶應義塾大学 大学院政策･メディア研究科 准教授

日本ハンドボール協会 監事

博士（慶應義塾大学大学院 政策・メディア）。筑波大学体育専門学群卒。長崎県保健体育教諭、男子ハンドボール部顧問として、インターハイ優勝、全国選抜大会準優勝、国民体育大会優勝などの成績を収めた。男子チームを率いる女性指導者として、初めて全国大会優勝。専門はスポーツコーチング。コーチの心理的葛藤（ジレンマ）をゲーム理論で援用し、望ましいコーチングに近づくためのライフスキルプログラムのしくみを開発・展開している。

梶原 晃　KAJIHARA Akira

202

三重花菖蒲スポーツクラブ 三重バイオレットアイリス 監督･GM代行

2007年、幼い頃からの夢を追い単身ドイツに渡り、ハンドボール・ブンデスリーガのTVエムスデッテンに加入。強豪THWキール戦でブンデスリーガ1部初得点を記録。ドイツの大学では経営学を学び、日本の高校教員免許（理科）を持つ。2016年2月、帰国と同時に三重バイオレットアイリスにビジネスマネージャーとして加入。2017年よりGM代行を兼任し、2019年監督に就任。

三枝 大地　SAEGUSA Daichi

202

日本オリンピック委員会(JOC)専任コーチングディレクター バレーボール

日本バレーボール協会 女子U17/U18日本代表監督

NTC専任コーチングディレクターとして、男女全カテゴリーのサポートをしながら、U20女子代表コーチ、U23女子代表コーチを歴任。現在はU18女子代表監督、中学選抜女子代表監督として女子アンダーエイジカテゴリーを中心に育成、強化を担当。発掘育成委員として小学生エリートアカデミー、中学生長身者育成なども担当し、一貫した選手育成を担っている。ロンドン2012大会、リオ2016大会には女子代表チームサポートとして現地に帯同した。

土肥 美智子　DOHI Michiko

202

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツメディカルセンター 副主任研究員

オリンピック等に日本選手団本部ドクターとして帯同し、日頃よりスポーツドクターとしてアスリート支援に従事。2013年より文部科学省及びスポーツ庁委託事業として日本スポーツ振興センターが実施する、女性アスリートの育成・支援プロジェクトの責任者を担当。託児室や女性アスリート相談窓口の設置、周産期トレーニングサポート、ママアスリートネットワーク等、女性アスリートの支援体制整備に尽力している。

松井 陽子　MATSUI Yoko

202

ハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部 開発課 主任専門職

トリノ2006大会フリースタイルスキーエアリアル日本代表コーチ。日本オリンピック委員会（JOC）タレント発掘･育成支援アシスタントディレクターを経て、2012年12月に日本スポーツ振興センターに入職し、2019年4月より現職。スポーツ庁委託事業「女性アスリートの戦略的支援プログラム」マネージャーとして、女性エリートコーチ育成プログラム等を実施している。

イニゴ・ムジカ　Iñigo MUJIKA

203

バスク大学 准教授

サンテ・ティエンヌ大学（フランス）及びバスク大学（スペイン）にて博士号（筋生理学、身体運動・スポーツ科学）を取得。オーストラリア国立スポーツ研究所（AIS）上級生理学者のほか、オーストラリア、スペイン、フランスにおける競技団体･プロチーム（トライアスロン、サッカー、競泳、サイクリング）への参画を経て現職。原著論文、著書、国際会議等での講演歴多数。スペイン競泳連盟スポーツ科学・パフォーマンスサポート責任者、フィニス・テラエ大学（チリ）研究員、International Journal of Sports Physiology and Performance共同編集者も務めている。

櫻井 誠一　SAKURAI Seiichi

204

日本身体障がい者水泳連盟 常務理事･技術委員長

パラ競泳ナショナルコーチ。神戸市職員として勤務時に開催された1989年極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会「フェスピック」でのボランティアを機にパラ水泳クラブを結成し、選手の育成に取り組む。以降、長年にわたりパラ水泳の指導者及び選手育成の仕組みづくりに従事。アトランタ2016パラリンピック水泳競技監督をはじめ、パラ競泳のコーチ・監督を歴任。行政経営の経験から法人化や支援者獲得など組織マネジメント等も行っている。

舩先 康平　FUNASAKI Kohei

204

日本カヌー連盟 第一強化部 アスリートパスウェイ部門長

2013～2017年に、日本スポーツ振興センターにおいて、アスリート育成パスウェイ構築のためのプログラムやツール開発に従事。2017年から日本カヌー連盟ジュニア強化委員会にて、アスリート育成パスウェイの構築に尽力している。また、筑波大学大学院にて、国と競技団体とのガバナンスの課題改善を目的としたモニタリングツールの研究をしており、健康医療ビッグデータを活用した人工知能（AI）開発プロジェクトにも参加している。

古幡 陵介　FURUHATA Ryosuke

204

日本自転車競技連盟 BMX強化コーチ

BMXレースの日本代表として国際大会で活躍。7歳からBMXレースを始め、2017年までプロライダーとして活躍。2017年から指導者として、幅広い年代のコーチングに従事。

ジェイソン・ガルビン　Jason GULBIN

204

International Sport Advisory Services (ISAS)ディレクター

オーストラリア国立スポーツ研究所（AIS）でタレント発掘・育成のナショナルマネジャーとして13年間勤務。現在は日本スポーツ振興センターのハイパフォーマンス戦略部アドバイザーとしてアスリート育成パスウェイ構築の支援提供を行っている。

衣笠 泰介　KINUGASA Taisuke

204

ハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部 開発課 主任専門職

筑波大学卒。クイーンズランド大学博士号取得。シンガポールスポーツスクール及びスポーツインスティテュートにおいてユース育成及び競泳の科学サポートに従事。2017年まで日本スポーツ振興センターにてオリンピック・パラリンピック一体型のナショナルタレント発掘・育成プログラム（NTID）の開発にあたり、現在は同所属にてアスリート育成パスウェイ構築を支援している。

仙石 泰雄　SENGOKU Yasuo

205

筑波大学 体育系 助教

筑波大学体育専門学群卒、同大学院博士号（体育科学）取得。大学院在学時から筑波大学水泳部でコーチングに携わり、2010年ヘッドコーチに就任。リオ2016大会日本代表をはじめ、代表選手を多数輩出。2016年世界選手権（25m）、2017年ユニバーシアード大会日本代表コーチ。専門研究分野は水泳コーチング学。

萩原 正大　HAGIWARA Masahiro

205

日本オリンピック委員会(JOC) アシスタントナショナルコーチ(セーリング)
日本セーリング連盟

鹿屋体育大学院体育学研究科（博士課程）在学中に、日本スポーツ振興センターが実施する文部科学省『チーム「ニッポン」マルチサポート事業』のスタッフとしてセーリングのサポートに従事。その後、国立スポーツ科学センター（JISS）の研究員を経て現職。現在はナショナルチーム「Sailing Team Japan」の強化推進にあたっている。

鈴木 康弘　SUZUKI Yasuhiro

205

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 先任研究員

筑波大学大学院体育科学研究科で博士号（体育科学）を取得後、日本ハム株式会社中央研究所を経て、2004年から現職。運動生理学・体力トレーニング論を専門とし、競技力向上を目的とした低酸素トレーニングや骨格筋の緩衝能に関する研究を行っている。

田中 研之輔　TANAKA Kennosuke

206

法政大学 キャリアデザイン学部・大学院 教授

博士（社会学）。専門はキャリア論。一橋大学大学院社会学研究科博士課程を経て、メルボルン大学、カリフォルニア大学バークレー校で客員研究員をつとめる。企業の取締役、社外顧問を14社歴任。『辞める研修 辞めない研修―新人育成の組織エスノグラフィー』、『先生は教えてくれない就活のトリセツ』、『覚醒せよ、わが身体。』、『丼家の経営』等、著書23冊。最新著は『プロティアン』（日経BP）。

松本 薫　MATSUMOTO Kaori

206

ジャスビコ 新規事業開発本部　（ダシーズ ギルトフリーアイスクリームラボ）
ベネシード AD統括本部 DI事業部 社会貢献推進課

5人兄弟の4番目として金沢市に生まれ、幼少期より親の勧めで兄姉と同じ柔道場に通い始める。2006年帝京大学入学。2015年（株）ベネシード柔道部創設から同部所属。ロンドン2012大会で金メダル、リオ2016大会で銅メダルを獲得。2012年石川県県民栄誉賞受賞、東京都栄誉賞・都民スポーツ大賞受賞、紫綬褒章受章。現在、ベネシードの関連企業である（株）ジャスビコのアイスクリーム事業（Darcy's）で開発に携わっている。

宮脇 信介　MIYAWAKI Nobusuke

206

日本フェンシング協会 専務理事

東京大学経済学部、カリフォルニア大学バークレー校経営大学院（MBA）卒。1984年日本興業銀行に入行。2000年からブラックロック等の外資系運用会社にて、運用業務およびマネジメントに従事。現在は、ベンチャー・ビジネス（Sasuke Financial Lab株式会社）の経営に参画。2014年より日本フェンシング協会常務理事、2017年より専務理事として太田雄貴会長とともに協会運営にあたっている。

河合 純一　KAWAI Junichi

206

ハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部 開発課 主任専門職

パラリンピック競泳金メダリスト。日本パラリンピアンズ協会会長。日本身体障がい者水泳連盟会長。生まれつき左眼の視力がなく、15歳で全盲となる。バルセロナ1992大会からロンドン2012大会まで6大会連続出場し、通算21個のメダルを獲得。2016年日本人で初めてパラリンピック殿堂入り。競技普及や環境整備などに尽力している。

久木留 毅　KUKIDOME Takeshi

207

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター センター長 / ハイパフォーマンス戦略部長

専修大学 文学部 教授

レスリング日本代表コーチ、英国ラフバラ大学客員研究員を経て、2016年より現職。専門は高度競技マネジメント（トップスポーツ政策、競技スポーツにおける情報戦略研究）及びコンディショニング（アスリートの減量）研究。スポーツ庁参与。

石毛 勇介　ISHIGE Yusuke

207

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター 副センター長 / スポーツ科学部長

国際武道大学体育学部准教授を経て、2011年日本スポーツ振興センターに入職し、2016年より現職。専門はスポーツバイオニクス。主に雪上系種目の支援を担当。

奥脇 透　OKUWAKI Toru

207

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター 副センター長 / スポーツメディカルセンター 長

整形外科医として、トップアスリートのスポーツ診療のほか、メディカルチェックや臨床研究に従事。トリノ2006大会、バンクーバー2010大会、ソチ2018大会、平昌2018大会にオリンピック日本代表選手団本部ドクターとして帯同。

髙橋 英幸　TAKAHASHI Hideyuki

207

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツ研究部長

筑波大学体育科学系助手を経て、1999年日本スポーツ振興センター（当時・NAASH）に入職し、2017年より現職。専門は運動生理学。特に骨格筋特性の視点からのコンディショニングに関する研究や支援を実施している。

加藤 弘之　KATO Hiroyuki

221

味の素 食品研究所 主任研究員

東京大学総合文化研究科修了後、味の素(株)に入社。入社以来、アミノ酸の生理機能の研究を行い、アミノバイタル®の開発に従事。博士(農学)取得。2015年より、2年間トロント大学にて訪問研究員として、タンパク質・アミノ酸研究を推進し、持久運動選手のタンパク質摂取推奨量が過小評価されていた可能性を見出した。現在、ビクトリープロジェクト®に参画し、科学的知見を深化させ、強化現場へ活用すべく活動している。

松田 丈志　MATSUDA Takeshi

221

セガサミーホールディングス

アテネ、北京、ロンドン、リオ大会に競泳日本代表として参加し、3大会連続でメダルを獲得。現役時代に感じた栄養の大切さを、知識として現場に還元するべく、競泳選手のたんぱく質摂取量に関する調査研究を行い、2019年に博士号（体育学）を取得。現在、自身の経験や知見をトップ選手の強化や一般選手への普及に活かすため尽力している。

亀井 明子　KAMEI Akiko

221

ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター スポーツメディカルセンター 先任研究員

公認スポーツ栄養士。栄養面から選手のパフォーマンス発揮のための支援・研究を行っている。

ポスター展示

401　ハイパフォーマンススポーツセンターにおけるスポーツ医・科学研究

01　走幅跳のパフォーマンスおよび助走速度とスプリント能力の関係

競技研究

研究代表者 / ポスター発表者　松林 武生（スポーツ科学部）

02　競泳のスタート動作と伸展パワーの関係

競技研究

研究代表者　松林 武生（スポーツ科学部）
ポスター発表者　明石 啓太（スポーツ科学部）

03　レスリングの大会に向けた急速減量に関する研究

競技研究

研究代表者　池田 達昭（スポーツ研究部）
ポスター発表者　近藤 衣美（スポーツメディカルセンター）

04　体重階級制競技における減量後の最適なリカバリーに関する研究

主要研究

研究代表者　髙橋 英幸（スポーツ研究部）
ポスター発表者　近藤 衣美（スポーツメディカルセンター）

05　バドミントンジュニアナショナルチームの身体組成 ～シニアチームとの比較から見た現在地～

競技研究

研究代表者　尾崎 宏樹（スポーツ科学部）
ポスター発表者　安藤良介（スポーツ研究部）

06　卓球競技におけるボールのトップスピンがもたらすポジティブな効果

競技研究

研究代表者　尾崎 宏樹（スポーツ科学部）
ポスター発表者　城所 収二（スポーツ研究部）

07　短時間の視覚情報でも瞬時に対応する卓球競技者の予測能力

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　城所 収二（スポーツ研究部）

08 AIによるゲーム分析支援

競技研究

研究代表者　尾崎 宏樹（スポーツ科学部）
ポスター発表者　松本 実（スポーツ科学部）

09 暑熱環境下での試合における効果的な身体冷却法の検証

競技研究

研究代表者 / ポスター発表者　中村 真理子（スポーツ科学部）

10 暑熱対策に関する研究

特別プロジェクト研究

研究代表者　髙橋 英幸（スポーツ研究部）
ポスター発表者　中村 真理子（スポーツ科学部）

11 塩味閾値を用いた新たな暑熱馴化評価法の探索的研究

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　内藤 貴司（スポーツ研究部）

12 一流女子ソフトボール投手が投じるボールの回転と飛翔軌道の特徴

競技研究

研究代表者　中村 真理子（スポーツ科学部）
ポスター発表者　森下 義隆（スポーツ研究部）

13 スピードスケートにおける加減速およびコースロスを評価するための スピード分析方法の再検討

競技研究

研究代表者 / ポスター発表者　横澤 俊治（スポーツ研究部）

14 一流女子スキージャンプ選手を対象とした踏み切り動作の特徴

競技研究

研究代表者　石毛 勇介（スポーツ科学部）
ポスター発表者　山辺 芳（スポーツ科学部）

15 スキージャンプ踏み切り動作に伴う姿勢変化が空気力に及ぼす影響

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　山辺 芳（スポーツ科学部）

16 スキー・コンバインド選手における異なる炭水化物の摂取量が翌朝の骨格筋グリコーゲンの回復に及ぼす影響

競技研究

研究代表者　石毛 勇介（スポーツ科学部）
ポスター発表者　石橋 彩（スポーツメディカルセンター）

17 パラアルペンスキー滑走中の筋放電パターン

競技研究

研究代表者　石毛 勇介（スポーツ科学部）
ポスター発表者　稲葉 優希（スポーツ科学部）

18 JISS宿泊室におけるアスリートの睡眠調査

主要研究

研究代表者 / ポスター発表者　星川 雅子（スポーツ研究部）

19 日本人エリートアスリートにおけるACTN3遺伝子多型と競技種目特性の関連性

主要研究

研究代表者　鈴木 康弘（スポーツ研究部）
ポスター発表者　赤澤 暢彦（スポーツ研究部）

20 低酸素環境下での高強度運動が筋グリコーゲン量に及ぼす影響

主要研究

研究代表者　鈴木 康弘（スポーツ研究部）
ポスター発表者　笠井 信一（スポーツ研究部）

21 東京2020対策心理サポートプロジェクトの展開

特別プロジェクト研究

研究代表者　立谷 泰久（スポーツメディカルセンター）
ポスター発表者　佐々木 丈予（スポーツメディカルセンター）

22 パラスポーツを活用したチームビルディングプログラムの実施

特別プロジェクト研究

研究代表者　立谷 泰久（スポーツメディカルセンター）
ポスター発表者　福井 邦宗（スポーツメディカルセンター）

23 JISS心理グループの掲げるサポート指針

特別プロジェクト研究

研究代表者　立谷 泰久（スポーツメディカルセンター）
ポスター発表者　阿部 成雄[1]　實宝 希祥[2]（[1]スポーツメディカルセンター　[2]スポーツ科学部）

24 ジャンプ動作の運動学・運動力学的特性

グループ課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　山下 大地（スポーツ科学部）

25 機械学習による「空手」動作評価手法の検討

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　相原 伸平（スポーツ科学部）

26 粒子スムーザとディープラーニングによるスポーツ現場映像のトラッキング

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　松本 実（スポーツ科学部）

27 競技柔道における競技パフォーマンス構造の妥当性の検証

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　衣笠 泰介（スポーツ研究部）

28 トップアスリートの肉ばなれに関する研究

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　奥脇 透（スポーツメディカルセンター）

29 競泳日本代表選手の腰椎の器質的変化と腰痛との関係

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　半谷 美夏（スポーツメディカルセンター）

30 膝蓋腱炎を含む膝伸展機構障害と早期膝蓋大腿関節軟骨損傷の関連

課題研究

研究代表者 / ポスター発表者　福田 直子（スポーツメディカルセンター）

402　スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）

31

筑波大学スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP)における2019年成果報告：次世代集中力強化対策事業

門間 貴史[1]、徳山 薫平[1,2]、松井 崇[1]、武田 文[1]、佐藤 誠[2]、榎本 靖士[1]、越智 元太[1]、薛 載勲[3]、藤井 悠也[3]、小倉 かさね[1]、征矢 英昭[1]
([1]筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター（ARIHHP）、[2]筑波大学国際睡眠統合医科学研究機構（IIIS）、[3]筑波大学大学院人間総合科学研究科)

32

筑波大学スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP)における2019年成果報告：パラリンピアン強化対策事業

藤井 直人[1]、高木 英樹[1]、西保 岳[1]、仙石 泰雄[1]、藤本 知臣[1]、言上 智洋[1]、齋藤 まゆみ[1]、澤江 幸則[1]、香田 泰子[2]、橘 香織[3]、中島 幸則[2]、小倉 かさね[1]、征矢 英昭[1]
([1]筑波大学体育系、[2]筑波技術大学、[3]茨城県立医療大学)

33

スポーツ競技力向上・スポーツ外傷障害疾病予防のための競技別Sports-CPS研究開発実用化～SRIP阪大拠点事業～

高畑 裕美[1]、小笠原 一生[1]、馬込 卓弥[2]、近田 彰治[1]、横山 光樹[1]、春本 要[3]、中田 研[1]
([1]大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学講座、[2]追手門学院大学 社会学部社会学科、[3]大阪大学 データビリティフロンティア機構)

34

スポーツ競技力向上・スポーツ外傷障害疾病予防のための競技横断的Sports-CPS研究開発実用化～SRIP阪大拠点事業～

高畑 裕美[1]、喜多村 祐里[1]、祖父江 友孝[1]、内山 彰[2]、東野 輝夫[2]、藤田 由江[3]、高尾 理樹夫[3]、堀部 秀二[3]、七五三木 聡[4]、望月 秀樹[1]、春本 要[5]、下條 真司[6]、中田 研[1]
([1]大阪大学大学院医学系研究科、[2]大阪大学大学院情報科学研究科、[3]大阪府立大学総合リハビリテーション学類、[4]大阪大学全学教育推進機構、[5]大阪大学データビリティフロンティア機構、[6]大阪大学サイバーメディアセンター)

403　女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究発表

35　女性アスリートの三主徴のエネルギー不足はテストステロンで判断できる

研究代表者 / ポスター発表者　松田 貴雄（西別府病院）

36　女性アスリート・パラアスリートをアクティブにするプロダクトデザインの提案

研究代表者 / ポスター発表者　鯉川 なつえ（順天堂大学）

37　女性アスリートのコンディショニングと栄養

研究代表者 / ポスター発表者　田口 素子（早稲田大学）
ポスター発表者　高井 恵理（早稲田大学）

38　女性アスリートにおける競技力向上要因としての体格変化と内分泌変化の検討

研究代表者　赤間 高雄（早稲田大学）
発表者　塚原 由佳（慶應義塾大学）※リーフレットのみ

39　AI プロテオミクスを活用した女性アスリートコンディショニングシステムの構築

研究代表者 / ポスター発表者　須永 美歌子（日本体育大学）

40　スポーツにおける酸化ストレスとの戦い

研究代表者　川本 和久（福島大学）　※発表なし、掲示のみ

41　女性アスリートのパフォーマンス向上とスポーツ傷害予防の両立を目指したトレーニングプログラムの開発と普及・啓発

研究代表者　下河内 洋平（大阪体育大学）
ポスター発表者　魚田 尚吾（大阪体育大学）

42 ジュニア期女子バスケットボール選手の多角的な全身性機能評価からみえた スポーツ外傷・障害予防に必要なこと

研究代表者　伊坂 忠夫（立命館大学）
ポスター発表者　栗原 俊之（立命館大学）

43 大学生女性長距離ランナーのトータルコンディショニングの現状報告

研究代表者　岩本 紗由美（東洋大学）　※発表なし、掲示のみ

44 女性アスリートリテラシー向上のための実践プログラム

研究代表者 / ポスター発表者　相澤 勝治（専修大学）

45 女性アスリートの婦人科疾患に関する調査

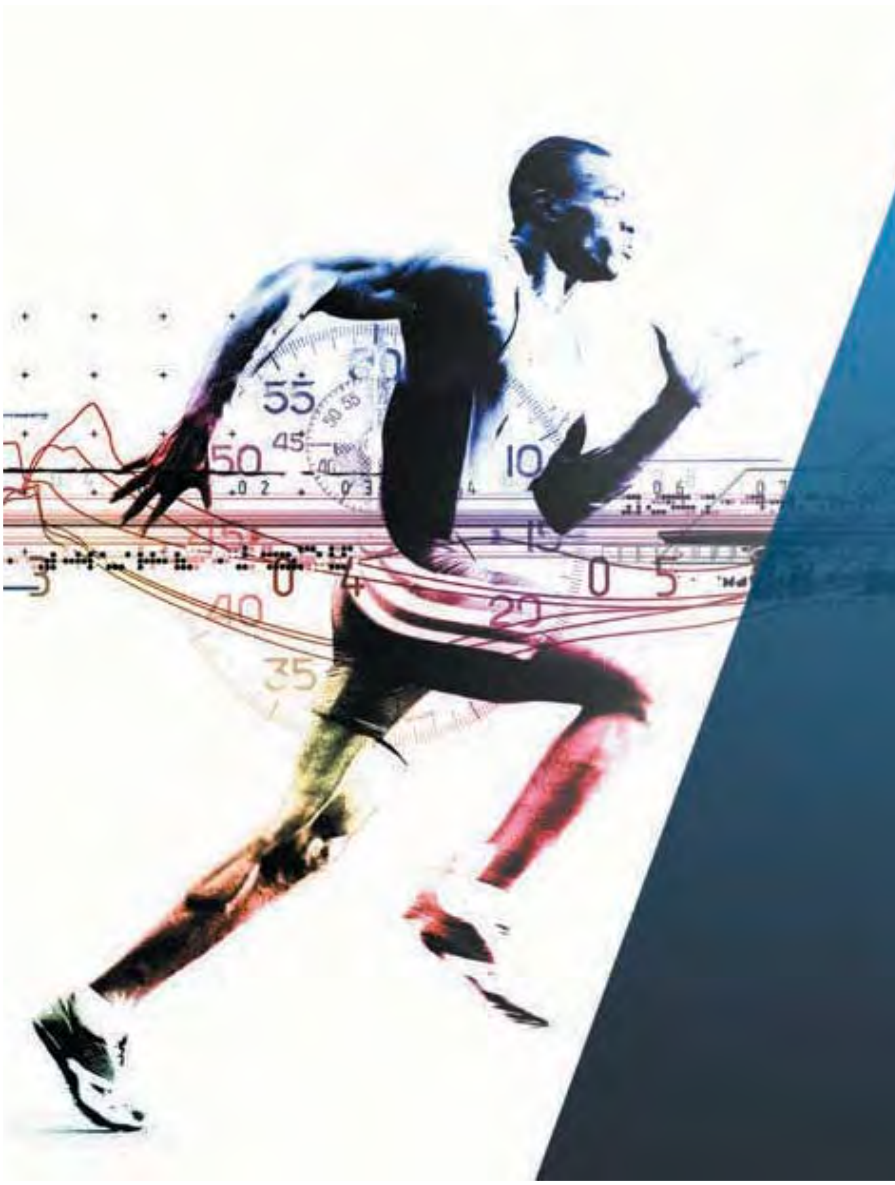
研究代表者 / 発表者　能瀬 さやか（東京大学医学部付属病院）※リーフレットのみ

46 女性障がい者アスリートの抱える問題点

研究代表者　神元 有紀（三重大学）　※発表なし、掲示のみ

47 アスリートの産後復帰プロセスにおける身体・心理的特徴 ～一般産婦との比較から～

研究代表者　奥脇 透（スポーツメディカルセンター）
ポスター発表者　土肥 美智子[1]、磯 あすか[2]、千葉 陽子[1]（[1]スポーツメディカルセンター、[2]フィジオセンター）



スポーツで稼ぐ世界を創り出す

アビームコンサルティングはスポーツに関わる様々なステークホルダーを“繋ぐ”ことで新たな価値を創出し、スポーツの力を活用したビジネス化を促進します

ABeam Consulting®

ABeam Sports®

企業変革を実現するリアルパートナー

アビームコンサルティング株式会社

私たちは、アジアを中心とした海外ネットワークを通じ、それぞれの国や地域に即したグローバル・サービスを提供している総合マネジメントコンサルティングファームです。戦略、BPR、IT、組織・人事、アウトソーシングなどの専門知識と、豊富な経験を持つ約6,000名のプロフェッショナルを有し、金融、製造、流通、エネルギー、情報通信、パブリックなどの分野を担う企業、組織に対し幅広いコンサルティングサービスを提供しています。 www.abeam.com/jp

本 社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4 番1号 丸の内永楽ビルディング	Tel: 03-6700-8800
芝オフィス（研修センター）	〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルA館	Tel: 03-6700-8920
大阪オフィス	〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪 タワーA	Tel: 06-7639-7100
名古屋オフィス	〒451-0046 愛知県名古屋市西区牛島町6番1号 名古屋ルーセントタワー	Tel: 052-446-6000
仙台オフィス	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目10番28号 カメイ仙台グリーンシティ	Tel: 022-797-5670
沖縄オフィス	〒904-0004 沖縄県沖縄市中央2-28-1 沖縄市雇用促進等施設	Tel: 098-929-1050

g-zone

PERFORMANCE CENTER

アスリートが結果を出す為に大切なこと！

Jr 世代からトップアスリートまで多くの選手が g-zone を選ぶ 5 つの理由!!

1. 基礎的なトレーニング指導から競技力向上に必要な動きのトレーニング指導ができるトレーナーがいる。
2. 小学生、中学生、高校生でもトレーニングできる環境がある。
3. トレーニングだけではなく、コンディショニング、リカバリーができるプログラムがある。
4. 少人数でのグループトレーニング指導と個々に合わせたパーソナルトレーニング指導を選択できる。
5. 選手、保護者の方が相談できる各専門家がいる。（※G-LIFE SKILLS　生活習慣、食事管理etc ）

G-LIFE SKILLS

G-LIFE SKILLSとは？

カラダの調子が良い日と悪い日の差が激しい。気分が良い日と悪い日の差が大きい。
食事に気をつけているが、効果が出ない。試合当日に実力を発揮できないなどの悩みが多くあります。
これらは個々の身体の状態が大きく関係していることもあるのです。
呼吸、睡眠、食事、内臓、自律神経、ホルモンなど個々の弱い部分が改善されると
身体の調整機能がしっかり働くようになるのです。
その人に合った身体のコンディションの整え方を見つけるのがG-LIFE SKILLS です。

株式会社 g -zone
〒615−0864　京都市右京区西京極新明町41
TEL/FAX: 075-874-4491

https://g-zone.co.jp/

ジーゾーンキョウト

STAR TRAC®

1987年に業務用トレッドミルを市場に導入して以来、長年に渡り総合フィットネスメーカーとしての地位を築いてきました。

CYBEX®

脚筋力測定器の製造メーカーから発展し人間性理学・生体力学に基づいた科学的根拠をもとに、マシンを設計・製造・販売しています。

adidas

ホームトレーニング、球技、陸上等、あらゆる選手がより良く、より速く、より強くなることをサポートする技術とデザイン性の高い商品を作り出しています。

Reebok

人々が活動的で健康的な生活を送れるよう、従来のやり方に挑戦し変化を遂げることで、フィットネスにおける目標を達成するために必要なツールやモチベーションを提供し続けます。

PROAVANCE CORP

総輸入販売元： 株式会社プロアバンセ
〒141-0022 東京都品川区東五反田 2 - 3 - 5 五反田中央ビル 5F
TEL: 03-5791-1400 FAX: 03-5791-1404 http://www.proavance.co.jp

科学的トレーニング指導の発信源

JATIはすべてのスポーツ競技・種目をフィジカル面からサポートします！

日本トレーニング指導者協会（JATI）は、日本人や日本の環境に適合したトレーニングの研究と普及発展、日本の現場で役立つ資格認定制度の確立、さらにトレーニング指導者同士が情報交換し、互いに磨き合うための組織を目指して2006年4月に誕生。同年8年に特定非営利活動法人として認可されました。

また2012年には、本会の理念および目的実現のための事業活動の一環として、日本トレーニング指導学会を立ち上げ、最先端の研究と現場をつなぐ役割を担い、科学的トレーニング指導に役立つエビデンスの集積を目指しています。

競技力向上や健康づくりなど、さまざまな現場でトレーニング指導に携わる者たちが、互いん切磋琢磨することによって専門性を高め、それにより社会への貢献を果たすことを目指しています。

JATIの活動

日本の環境や実状に合ったトレーニングの構築

国内外の情報を収集し、日本に適合したトレーニング法や指導法、システム等について会員間で情報交換を行い、より良いものを追求することを目指します。

日本におけるトレーニング指導者資格の確立

日本の学会から国内のエビデンスを収集し教育活動に活かすとともに、トレーニング指導者にとって本当に役立つスタンダードな資格も構築しています。

トレーニング指導者の社会的地位の向上と相互扶助

トレーニング指導者の雇用促進、待遇改善、行動規範や倫理規定の策定などを通じて、社会的地位の向上を目指します。

教育・研修、指導者間の交流や情報交換の促進

トレーニング指導者を目指す人を対象とした教育、専門家としてすでに現場で活動している人を対象とした研修や情報交換、会員間の交流などを通じて、互いに向上することを目指します。

数多くのトップアスリートに対する指導実績

数多くのJATI会員が、各種国際大会出場レベルを含むトップアスリートのパフォーマンス向上をフィジカル面からサポートしています。
（JATI会員アンケートより）

日本トレーニング指導学会

本会は、日本トレーニング指導者協会（JATI）の理念および目的実現のための事業活動の一環として2012年に設立。アスリートの競技力向上はもとより、フィットネス増進、子どもから高齢者までの幅広い層を対象としたよりよい発育・発達、さらには介護予防などを目的としたトレーニング指導についての科学的研究、実践発表、知識交換、会員相互及び内外の諸団体との連携協力等を図ることにより、トレーニング指導の普及・発展に寄与することを目的としています。

日本トレーニング指導学会学会誌
Journal of Scientific
Coaching for Training

特定非営利活動法人
日本トレーニング指導者協会（JATI®）
〒106-0041 東京都麻布台3-5-5-907
TEL：03-6277-7712
FAX：03-6277-7713
https://www.jati.jp/
E-mail：info@jati.jp

SONY

スポーツコーチングソリューション
スポーツパフォーマンスコーチ
SPM-PC1

主観から客観へ。自分で見るから分かる。
ビデオ映像によるコーチングサポートツール

主な特長

① 遅延再生・リプレイ・比較再生・描画機能をワンパッケージで提供
② １～２台のディスプレイでパフォーマンスを即時チェック
③ Wi-Fi接続にすることで、カメラを自由な位置に設置可能
④ タブレットを使った簡単・直観的な操作を実現

活用例

選手自身による
プレー直後の自己レビュー

リプレイと描画機能で、
具体的な技術指導

過去のプレーやお手本のプレーとの比較

直前の動作やセットプレーを遅延再生。振り返り確認が簡単に行えます。
理想のフォーム・フォーメーションを目指して繰り返し練習、さまざまなスポーツで活用いただけます。

競技例

トランポリン

野球

スキー

重量挙げ

サッカー

- セルフラーニング
- コーチング
- レビュー
- 比較分析
- 共通理解

本商品に関するお問合せ ： sony-ips-sports@sony.com

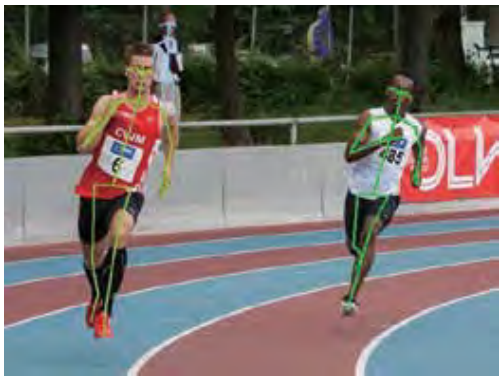
ソニーのプロフェッショナル/業務用商品の情報は sony.jp/pro/ 掲載商品に関するお問い合わせは 業務用商品相談窓口[フリーダイヤル] 0120-580-730
携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 050－3754－9550/受付時間：9～18時（土・日・祝日・弊社休業日は除く）

◎ソニーおよび SONYは、ソニー株式会社の登録商標です。 ◎その他記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では、TM、® マークは明記していません。 ◎商品を安全に使うために試用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎掲載商品の仕様や外観は改良のために予告なく変更することがあります。

Sony Business Solutions Corporation
ソニービジネスソリューション株式会社

◆マーカレス骨格検出ソフト　Pose-Cap

AIを利用してマーカーレスで体の骨格（合計30ヶ所）を検出！



※本ソフトウェアはPC1台のライセンス形式です。
ライセンスの移設作業は￥40,000-(税抜)となります。

検出ポイントは体の各部位30ヶ所から必要部位を選択可能
複数人の骨格も同時に自動検出します。

Pose-Cap　基本セット　FPC-SET1　￥ 300,000-(税抜)
【構成】 骨格検出ソフトウェア、データ修正解析ソフトウェア

Pose-Cap　パソコンセット　FPC-SET 2　￥ 580,000-(税抜)
【構成】 Pose-Capソフトウェア、解析用パソコン

Pose-Cap　パソコン・ウェブカメラセット　FPC-SET 3　￥ 590,000-(税抜)
【構成】 Pose-Capソフトウェア、解析用パソコン、USBカメラ、三脚

【オプション】

ソフトウェア

◆歩行解析ソフトウェア　￥ 100,000-(税抜)
・歩幅、歩行速度、ピッチを自動解析しレポートPDFを作成します。

◆3次元用USB2眼カメラセット　￥ 100,000-(税抜)
・リアルタイム機能上で3次元計測が可能になります。

◆3次元較正ソフトウェア　￥ 100,000-(税抜)　※現在開発中

◆3次元解析ソフトウェア　￥ 100,000-(税抜)　※現在開発中

専用パソコン　￥ 280,000-(税抜)

<スペック>
◇インテルCore i7-8750H　◇NVIDIA GeForceRTX2070
◇16GB DDR4 So-DIMM

・上記価格は、ソフトウェアのインストール作業費を含みます。
・お持ちのパソコンにインストールする場合にはお預かりしてインストール作業が必要となります。

専用高速カメラ

・複数台の同期撮影ができる高速カメラです。
・検出ソフトと同じPCに接続して使用できます。

◆PC制御用高速カメラ
FKN-CACO30　￥ 348,000-(税抜)

専用アナログ同期計測システム

・画像、骨格、検出データと筋電図等のアナログデータを同期して表示できます。高速カメラとの同期も可能です。

◆AD変換システム A-Cap2　8chシステム　FAD-AC08N2
￥ 398,000-(税抜)
【構成】 8chAD変換システム、A-Cap2ソフトウェア

◆A-Cap2 ソフトウェア　￥ 200,000-(税抜)　※現在開発中

◆VALD PERFORMANCE◆　NORDBORD

ハムストリングの強度と左右差を簡単・正確に測定！

ELITE パッケージ 登録可能プレイヤー数：100名 修理、パーツの交換を無償対応	**販売価格：** US$13,300 **レンタル価格：** 年間 US$ 4,100
PRO パッケージ 登録可能プレイヤー数：40名	**販売価格：** US$11,050 **レンタル価格：** 年間 US$ 3,400

※販売価格には3年間のライセンス付属。
4年目以降はライセンス費用として年間US$2,500が発生します。

※レンタルのご契約は3年間からとなります。

※上記価格に海外送料として別途約US$250必要となります。

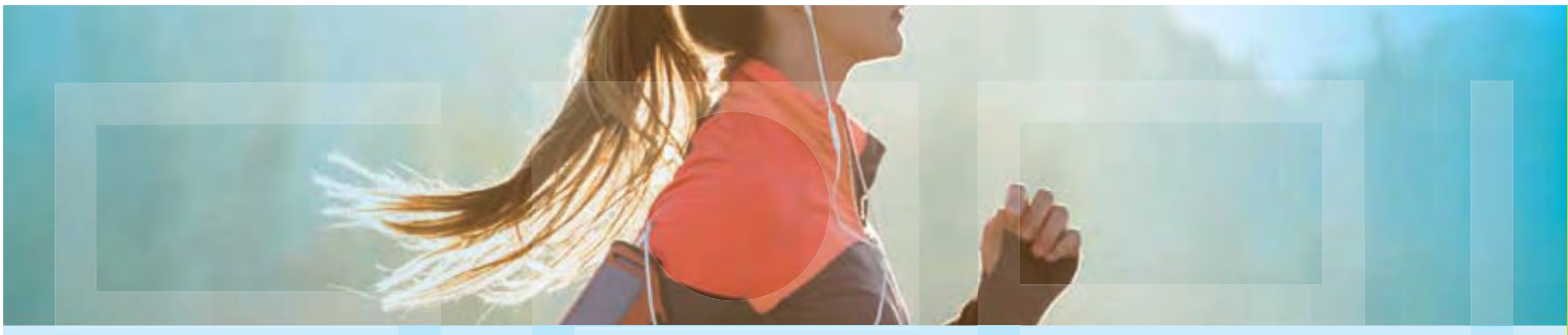
DR. TONY SHIELDやDR. DAVID OPARといった著名なスポーツ科学者によって開発されました。
開発以来、NordBordはアスリートのハムストリングの働きを解明するカギとなるシステムとなってます。

・Bluetoothを使用した簡単無線計測
・計測データをリアルタイムに表示
・専用アプリはWindows・Mac・iOSに対応
・計測データはクラウドシステムでアスリートごとに管理
・レポートの生成、CSV/Excelファイルのエクスポート機能

◆世界中のエリートスポーツチーム、アカデミー、研究機関がVald Performanceのシステムを信頼し、アスリートのスクリーニング、モニタリング、リハビリやトレーニングに役立てています。

【導入実績】
◇サッカー／イングランドプレミアリーグ　20チーム　◇アメフト/NFL　21チーム　◇野球/MLB　15チーム
◇バスケットボール/NBA　22チーム　◇ラグビーユニオン　16チーム　他

お気軽にお問い合わせください。
株式会社 フォーアシスト
スポーツの発展のため全力でアシストします
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-17-14 北の丸ビル 2F
TEL 03-3293-7555　E-mail info@4assist.co.jp
FAX 03-3293-7556　URL http://www.4assist.co.jp



Athlete Spirits Breath®

想いをカタチにするアスリートブック

メディアで取り上げられるアスリートはごく一部。その陰でアスリートの多くは日々の練習に励み、人知れず結果を追い続けています。しかし、それらの選手は夢を追いかけるための支援を必要としています。

アスリート、チーム、団体

▶ブック販売金額が支援金に

▶地域の支援者が増える

▶更なるモチベーションの向上

など

支援

日々の努力

過去のあゆみ

アスリートとしての将来の夢

※表紙はイメージです

購入

支援者（法人・個人）

（ブック購入者）

▶アスリートの活動や経歴がわかる

▶身近に応援できる選手が見つかる

▶マイナースポーツへの支援

など

多くの支援者に支えられて

支援金を基に、活動の幅を広げ夢の実現に向けて邁進できます。また、支援者と直接つながることにより、アスリートのセカンドキャリアにも役立ち、将来の不安を抱えずに競技に専念できます。

SPORTS PARTNERSHIP PLACE JAPAN®

一般社団法人 スポーツ・パートナーシップ・プレイス・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-12-6 内神田OSビル6F

TEL 03-5256-6053　FAX 03-5256-7478

HP : http://s-ppj.com　MAIL : info@s-ppj.com

夢をつかみたい人につかんでほしい。

大塚製薬独自※の
乳酸菌
B240

＋タンパク質
ゼリー

＋電解質
ドリンク

覚えておいてください。夢に向かってがんばるあなたは、がんばった分だけリスクを抱えています。必要なのは、努力+メンテナンス。<ボディメンテ>は、大塚製薬独自※の乳酸菌B240の力であなたを健康リスクから守ります。大切な本番を迎えるあなた。メンテナンスを始めませんか。

飲んでカラダをバリアする。ボディメンテ

※東京農業大学が単離、大塚製薬が有効性を確認した乳酸菌。

Otsuka 大塚製薬　お客様相談室 TEL：0120-550708　ボディメンテ公式サイト：https://www.otsuka.co.jp/bdm/

日本のスポーツの未来を支える

ちょっと ご案内

スポーツ施設の維持管理・プール監視やスポーツイベントの企画・警備・案内、臨場感ある現場を体験するインターンシップ、アルバイトの受け入れを充実させています。

BUILDING MAINTENANCE（清掃）

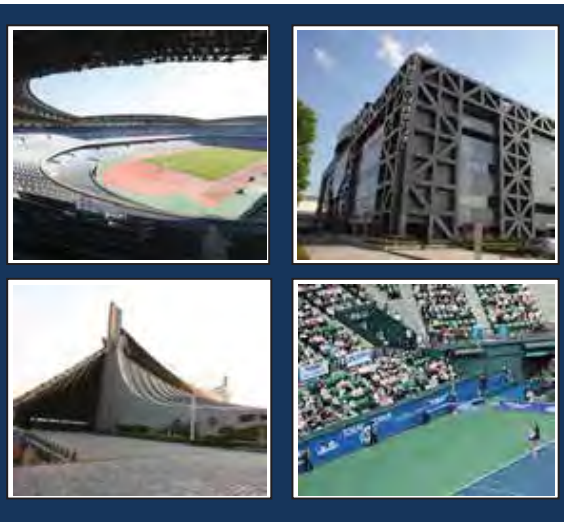
SECURITY CONTROL（警備）

MANAGEMENT FOR SPORT FACILTES
（スポーツ施設管理）

MUSEUM　（美術館/ミュージアム管理）

RUNNING OF THE EVENT（イベント）

DESIGNATED MANAGERBUSINESS
（指定管理者事業）



http://www.k-bm.co.jp/

KYOEI

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

Behind Your "Best"

車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
髙橋 礼華 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手

女子ハンドボール
原 希美 選手

女子ハンドボール
永田 しおり 選手

女子ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

ホッケー
田中 世蓮 選手

ホッケー
清水 美並 選手

ホッケー
内藤 夏紀 選手

競泳
瀬戸 大也 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手

パラ水泳
木村 敬一 選手

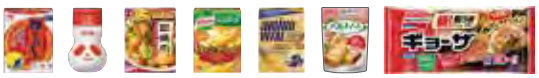
パラ水泳
山田 拓朗 選手

5人制サッカー
佐々木 ロベルト泉 選手

5人制サッカー
黒田 智成 選手

© ロイター／アフロスポーツ © アフロスポーツ © 西村尚己／アフロスポーツ

味の素㈱は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。



＼ がんばる人のチカラになるごはん ／

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。
味の素㈱は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。

TOKYO 2020 | AJINOMOTO | TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー
（調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品）

NIHON KOHDEN

AED-3150

ガイドライン2015対応

日本語 English BILINGUAL

AED-3150は耳が不自由な方にもお使いいただけます。

made in Japan

自動体外式除細動器 AED-3100シリーズ カルジオライフ

cardiolife

音声とカラー画面で救助をサポート

- 音声ガイドに加え、3.5型高輝度カラー画面によるイラスト・メッセージ表示で操作の確認が可能
- 電源ON時から100回／分の動作音
- 電極パッドの使用期限や導通確認を含めた充実のセルフテスト
- −5℃の環境でも操作が可能、IP66に準拠した高い防水性および防塵性も装備
- 日本語と英語のバイリンガルに対応可能※

※詳しくはお問合せください。

音声ガイドが聞き取りにくい環境でも、耳の不自由な方にも操作可能

成人・小児モード切換スイッチで幅広い年代に対応

販売名：自動体外式除細動器 AED-3100シリーズ カルジオライフ
商品コード：AED-3150
医療機器承認番号：22700BZX00187000
クラス分類：高度管理医療機器、 特定保守管理医療機器

・添付文書を必ずお読みください。
・電極パッドは使い捨てです。再使用できません。
・AEDに不測の事態が発生した時及び譲渡時（高度管理医療機器等販売業の許可業者に限る）、廃棄時には、日本光電またはAEDを購入された販売店にご連絡ください。
・未就学児の患者さんには小児モードへ切り換えて使用してください。

AED設置管理タグをよく見える所に！

忘れないで日常点検！

AEDは救命処置のための医療機器です。AEDを設置したら、いつでも使用できるように、AEDのインジケータや消耗品の有効期限などを日頃から点検する事が重要です。

製造販売業者または販売業者が、設置者の保守管理の手間を軽減する独自のサービスをご用意しております。お客様のご都合に合わせて、これらを利用し、いつでもAEDが使える状態にしておいてください。

AED設置管理タグ

AEDのお求めは日本光電へ

〈製造販売〉

日本光電　東京都新宿区西落合1-31-4　〒161-8560　☎03(5996)8000

＊カタログをご希望の方は当社までご請求ください。

★AED保守受付センタ　0120-233-821

★AED専用ホームページ　https://www.aed-life.com/

69AH-00067

Build Your Life.

1971年の創業以来「技術と創造力で社会基盤を支える卓越したIT企業」として歩んできました。
来る2020年には50期目を向かえる私たちは、
人々の未来をより豊かにするため、特化した技術力で社会に貢献していきます。
ビッツはこれからの50年も、さらに進化し続けます。

cyve

クラウド型予約受付やレンタルサイトの例

システムは技術と人の想いから

株式会社 ビッツ

日々の業務のIT化をお考えの方は、お気軽にお問合せください。

東京都品川区西五反田8-11-13　Tel.03-3779-2150　Fax.03-3779-2198
Mail：cyve-info@bits.co.jp　URL：www.bits.co.jp

©2019 BITS CO., LTD.

※記載されている会社名及び製品名は、ビッツの商標又は登録商標です。　※本資料に記載された内容、デザインは予告なしに変更する場合があります。

DARTFISH

□マルチアングルキャプター
最大 4 台のカメラ、4K動画に対応

□タギング
試合中にタグを追加してゲーム分析

□豊富な分析ツール
2D/3Dアナライザーでわかりやすく分析

□サイマルカム&ストロモーション
合成・残像表示でビジュアル化！

□クラウドスペース
分析データや動画をクラウドに共有

[お問い合わせ] TEL: 03-5835-5661
株式会社
ダートフィッシュ・ジャパン

リアルな現場で働くお客様の課題に、最適な解答を。

サービスのインテグレーションで未来をつくる

私たちは、新たな一歩を踏み出しました。官公庁・法人のビジネス現場に最適なプロダクツをご提供できる、パナソニックグループならではの強みに、IoTやAIなど、先進技術を積極的に取り込み、お客様のかけがえのない事業パートナーとして、新たな価値をご提供します。各業界に精通した営業・SEによるシステム提案や、全国70拠点での施工・保守サービスのご提供も今まで以上を目指します。パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社は、「サービスインテグレーションで未来をつくる」を旗印に、お客様の挑戦を支え続ける企業を目指します。

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

A Better Life, A Better World

http://panasonic.com/jp/company/pssj/

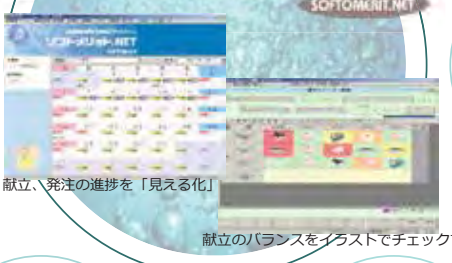
社食・学食向け
画像AIレジシステム
メニューバンク®

選択した料理の栄養価と価格を表示

栄養摂取量
算出支援

給食管理WEB
アプローチシステム
ソフトメリット・スパイダー®

給食経営管理システム
ソフトメリット.NET®



献立、発注の進捗を「見える化」

献立のバランスをイラストでチェックする

デジタル
サイネージ
連携オプション

配食管理
オプション

管理栄養士と専属SEの
栄養のトータルソリューションベンター
SOFTOM

https://www.softom.co.jp

セントラルキッチン
オプション

弁当業向け
販売管理システム
ランチエクスプレス®

QUALITY
EQUIPMENT
FOR
PROFESSIONAL
PEOPLE

最新のトレーニング器具と最先端の知識を提供

パフォームベタージャパンはトレーニングをはじめ、リハビリやスポーツパフォーマンス向上のために必要な用具を販売すると同時に理学療法士やトレーナーに対して、最先端の知識や技術を提供するセミナー事業を展開しています。

PERFORM BETTER! JAPAN

Instagram

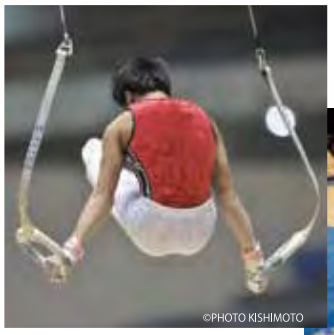
Facebook

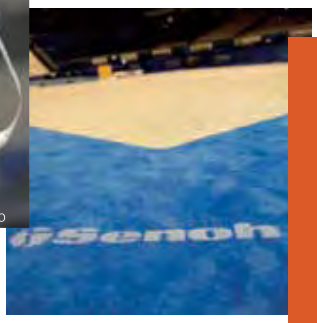
Twitter

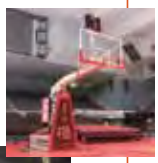
performbetter.jp

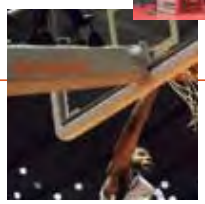
シダックスグループは
「すべては未来の子どもたちのために」を大義とし「運動・栄養・休息・心・美」の
総合サービス企業として人と人との絆を育み、社会を健康に美しくする
ソリューション・カンパニーです。

SHIDAX
人と社会を健康に美しく
https://www.shidax.co.jp









全力のそばにいること

コンマ1秒の戦いに挑むこと、
悔しい思いに涙を流すこと、
少しでもうまくなるために毎日練習すること、
勝利の喜びも、できるようになった感動も、
いつもスポーツに全力でがんばる人のそばに

Senoh

公式 facebook で
最新情報更新中！

セノー株式会社 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250
Tel:047-311-3511 Fax:047-311-3515 https://www.senoh.jp

DataLITE

無線データ取得システム

無線化で測定をより簡便に

✔ 起動から測定開始までの所要時間が短い
ペアリングは初回のみ、すぐ測定に移れます

✔ 最大16chの同時収録が可能
角度※2、筋電図、加速度、握力等が測定可
無線トリガースイッチ使用で他機器と同期

✔ 最大8時間連続使用

✔ 国内技適取得済み

※2 2軸仕様の為、最大8本（16ch）使用可

MSC GROUP DKH

— 人の動きを捉えて科学する —
株式会社 DKH

〒179-0081 東京都練馬区北町 1-41-20 DKHビル
TEL: 03-6915-7080
FAX: 03-6915-7081
http://www.dkh.co.jp
E-Mail: info@dkh.co.jp

競技サポートシステムからオフィス環境の構築までご提案いたします！

導入実績

- 映像編集システム
- センシングシステム
- Mac 環境構築
- ハイスペック競技サポート PC
- ネットワークス環境構築
- 各種サーバー構築
- OA 機器導入
- 事務所移転

取り扱い品目

- サーバー /PC/ ネットワークス機器
- 複合機 / プリンター
- システム周辺機器
- オフィス什器 / 事務所移転 / 電話設備工事

お問い合わせはこちら

Challenge Challenge Changes !
STELLAR GROUP

ステラグループ株式会社
☎ 03-5804-8787　https://www.stargp.jp
〒 112-0004　東京都文京区後楽 2-3-21 住友不動産飯田橋ビル 11 階

フクダグループは医療機器専門メーカーとして病院向けの検査・治療機器をはじめ、AEDや在宅医療・介護も展開しております。

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600／受付時間:月～金曜日 (祝祭日,休日を除く) 9:00～18:00 https://www.fukuda.co.jp/

協　賛

ゴールドパートナー

FUJITSU

ブロンズパートナー

NTT docomo

ランチセッションパートナー

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

広告協賛

広告掲載各企業

ノベルティパートナー

特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
シスメックス株式会社
大塚製薬株式会社

www.toto-dream.com www.toto-growing.com ㊙19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

スポーツデジタルソリューション

競技のレベルアップから新しい観戦スタイルまで、
3つのソリューションでスポーツ業界の発展に貢献します。

スポーツのセンシング/ AI

映像やセンサーで、人やボールの動きを識別し、見える化するソリューションです。トレーニングや戦術策定、採点・判定の支援に効果を発揮します。

スポーツデジタル マーケティング

選手、ファン、イベント、チケット、グッズなどの情報を収集し、一元管理する“データマネジメントプラットフォーム（DMP）”をコアに、収益拡大、サービス向上などに貢献するソリューションです。

スタジアム / アリーナ ソリューション

スタジアム、アリーナの最先端ICT設備で競技観戦のエンターテインメント性を向上しつつ、同時に管理/運営を効率化するソリューションです。

富士通のスポーツ ICT の詳細はこちらへ

スポーツ ICT　検索

shaping tomorrow with you